

# 大気環境学会誌

**J** Journal of  
**apan**  
**S** ociety  
**ociety**  
**for**  
**A** tmospheric  
**tmospheric**  
**E** nvironment  
**nvironment**

2025

Vol. 60

No.2

大 気 環 境 学 会  
JAPAN SOCIETY FOR ATMOSPHERIC ENVIRONMENT

目 次

あおぞら

自動車と大気環境と ..... 森川 多津子

研究室紹介

北九州市立大学国際環境工学部 生命工学科 浦西研究室

研究論文(技術調査報告)

光化学オキシダントを対象とした化学輸送モデルバイアス補正のための機械学習モデルの構築  
 ..... 山村 由貴, 廣瀬 智陽子, 山本 重一, 菅田 誠治 ... 11

大気環境学会ニュース

第66回大気環境学会年会のお知らせ(第3報) ..... N11  
 大気環境学会賞受賞候補者の推薦について ..... N17  
 Asian Journal of Atmospheric Environment Vol.18 Article number 24-26 2024,  
 Vol.19 Article number 1 2025 CONTENTS & ABSTRACT ..... N18

支部だより

関東支部 講演会開催のお知らせ ..... N21  
 中部支部 中部支部・オンライン講演会の報告 ..... N21  
 近畿支部 生体影響部会講演会のお知らせ ..... N21

分科会・研究会だより

環境大気モニタリング分科会 56回研究会のお知らせ ..... N22  
 植物分科会 公開シンポジウムのお知らせ  
 BVOC研究の新展開—進化論から放出目録整備、大気質影響までの最新の知見— ..... N22

委員会だより

編集委員会 研究論文の投稿のお願い ..... N23  
 「研究室・企業紹介」の原稿募集のお知らせ ..... N23  
 会員へのお知らせの掲載について ..... N23  
 論文賞選考委員会 論文賞の選考対象について ..... N23

関連学協会だより ..... N24

## CONTENTS

### [Blue Sky]

Automobiles and the Atmospheric Environment ..... Tazuko Morikawa

### [Technical Report]

Development of a Machine Learning Model for Bias Correction of Chemical Transport Models Targeting  
Photochemical Oxidants  
..... Yuki Yamamura, Chiyoko Hirose, Shigekazu Yamamoto, Seiji Sugata ... 11

## —あおぞら—

## 自動車と大気環境と

一般財団法人日本自動車研究所  
森川 多津子

電気自動車を買った。地球環境にやさしいから、とか、エコだから、というのが一番の理由ではなかった。乗っていた車が14年目で故障が頻繁に起きて修理代がかさむ。税金も13年目、15年目でまた上がる。ガソリン代は高止まりのままである。ディーラーは新車を勧めてくる。電気自動車、良いですよ。補助金も出ます。今なら税金もかかりません。夫は乗り気である。マンション住まいで充電機もないのになんかの見切り発車である。

思えば自動車は長い間、大気汚染問題の中心の一つとして位置づけられてきた。1990年代後半、私が自動車研究所に勤め始めたころ、自動車はまさにそういう位置にあった。大都市においてそれは決定的で、東京都内の浮遊粒子状物質(SPM)の大気環境基準達成率はほぼ0%の状況が続いていた。都市の大気汚染に一番近い研究ができれば、と思って選んだのが自動車研究所だった。排出ガス規制は強化されてもそれを上回る走行量の増加で大気汚染物質の排出量が増えていた時期でもある。誰もが限界を感じていたであろう20世紀の終わりに、状況は変わった。業を煮やした石原都知事のパフォーマンス<sup>注1</sup>、自動車NOx・PM法<sup>注2</sup>の施行、八都県市条例と走行規制<sup>注3</sup>。あの時、ペットボトルに入ったススを振ったのは私ではなく、他のどの研究者でもなかった。そして、都内のSPM濃度は劇的に低下した<sup>注4</sup>。

大気モニタリングの結果には効果ははっきりと表れ、明確になればなるほど、私自身、何も貢献できなかったという思いもあり心境は複雑だった。でも！ それらを吹き飛ばしたのは大気がきれいになっていくという実感だった。今日も都心から富士山が見えた、というニュースがある。最近の空は青くなった気がする、という会話がある。トラックの横にいても何の臭いもしない。もちろん自動車以外の発生源の対策もあったと思うが、すっかり、新しい自動車はすごい！ という状況に一変した。すでに大気汚染物質の濃度は1980年代から全般的に低下傾向にあったが、一般環境大気測定局と自動車排出ガス測定局の大気汚染物質濃度の差、これを自動車の影響とみると、2000年代に入ってから差は顕著に縮まっていった。2022年の全国測定値ではっきりと差が残るのは二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)であるが、濃度も低下しつつ、この差もわずかであるが年々縮まっている。

自動車のエンジンはガソリン車でもディーゼル車でもシリンダの中で燃料を燃焼(爆発)させ、その燃焼ガスが仕事をする。これをどれほどの方が意識されているだろうか。液体燃料は空気とちょうど良い燃焼ができる比率で混ぜられ、混

合気となり、それが着火してピストンを押し上げ、動力が取り出され、燃焼ガスが排出される。1分間に2000回転ということは、1分間に1000回もその工程が繰り返されているということである。燃料も天然ガスのように単純な組成ではない。PMを捕集するDPF<sup>注5</sup>はもちろん、NO<sub>x</sub>をはじめ自動車排出ガスの浄化には技術の粋が集結しており、背景には数えきれない人々の努力と試行錯誤の積み重ねがあったのだろうと思う。

現在、自動車は今度こそ避けて通れない課題として脱炭素社会に向けた対応を迫られている。しかも大気汚染物質に対しても欧州は次期排出ガス規制Euro7を掲げている。乗用車はハイブリッド車を含む電動車への切り替えが進んでいくだろう。貨物車は選択肢がいくつかある中でエンジンが残る道もあるかもしれない。いずれにしても大きな転換点を迎えるようとしていることは確かである。

冒頭の話に戻る。電気自動車は直接排出される大気汚染物質はないという点ではメリットがある。しかし、そもそも発電量の7割が化石燃料の火力発電<sup>注6</sup>なのだからまだ本当のエコとは言えない。うちの車は車体が重くなった。それだけでもエネルギーを余計に使っている。妙にスタイリッシュである。エコとはもっと地味なものではなかったか。これがセクシー<sup>注7</sup>ということなのかもしれないと納得する。そんな悠長な話でもあるまいに。2050年の脱炭素社会に向けた行動とは。自動車からの大気汚染物質の排出量の将来推計をしつつ、大気環境の、私たちの未来の行く末を思っている。

## 注

- 注1. 石原慎太郎東京都知事(当時)がディーゼル車の黒煙を入れたペットボトルをかざし、ディーゼル車NO作戦を訴えた。1999年8月が最初とされる。
- 注2. 「自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法」2001年6月に自動車NOx法の改正法として成立、2002年より施行(車種により異なる)。
- 注3. 東京都の「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」など、当時、首都圏の八都県市が連帯しそれぞれにディーゼル車の排出ガスを規制する条例を制定。2003年10月より埼玉・千葉・東京・神奈川の全域でPM排出基準を満たさないディーゼル車の走行を禁止した。現在は九都県市として九都県市指定低公害車の導入など連携した取組みが続けられている。
- 注4. 東京都内の自動車排出ガス測定局46局のSPM環境基準達成率は2002年度が0%、2003年度11%、2004年度97%、2005

年度100%。以降、ほぼ100%が続く。

注5. Diesel particulate filter、ディーゼルエンジンの排出ガス中の粒子状物質を捕集する。多くはセラミック製。たまった粒子は定期的に燃焼再生される。

注6. 資源エネルギー庁「令和4年度(2022年度)エネルギー需給

実績」バイオマスを除く火力発電所からの発電量は72.8%、再生可能エネルギーは21.8%。

注7. 2019年、小泉環境大臣(当時)が国連の環境関連のイベントの前の記者会見で「気候変動のような大きな問題は楽しく、かっこ良く、セクシーであるべきだ」とした発言。

## 研究室紹介

# 北九州市立大学国際環境工学部 生命工学科 浦西研究室



### ▶ Future



北九州市立大学ひびきのキャンパス



### ● 研究室の概要

浦西研究室は、北九州市立大学ひびきのキャンパスにおいて2022年10月に発足し、現在3年目を迎えています。3月末には1名の4年生が研究室を巣立ち、4月から浦西克維准教授、博士前期課程2年生1名、1年生2名、学部4年生3名(+仮配属2名)の体制で研究に取り組むこととなります。

研究室では学生の自主性を尊重する方針から、自身の研究に関して、研究室外でできる作業については作業場所を問わない代わりに、ゼミでの進捗報告をきちんと行うよう学生に求めています。一方、自主的に研究を進めることが苦手な学生には、研究室にてその都度、進捗確認と研究の進め方について指導する毎日です。毎年10月には、3年生が研究室に仮配属され4年生までの半年間、卒業研究するための準備(研究で利用するモデル等を用いた演習)を行います。同時に、4年生の卒業研究も佳境を迎え、研究室内の人口密度は急上昇。繁忙期へと突入し、2月中旬の卒論発表会までこの状況が続きます。

### ● 研究テーマ

当研究室では、東アジアを中心とした光化学オキシダント、PM<sub>2.5</sub>といった大気汚染物質の環境動態の把握や発生源解析に関する研究をソースモデル(化学輸送モデルCMAQ)やレセプターモデル(CMB、PMFモデル)等を用いて進めています。今期の卒論では、4年生に西之島の噴火によるPM<sub>2.5</sub>濃度上昇事例の再現シミュレーション、PMFモデルによる2020年開始の船舶燃料規制影響解析、機械学習による光化学オキシダントの空間濃度分布推定等に取り組んでもらいました。

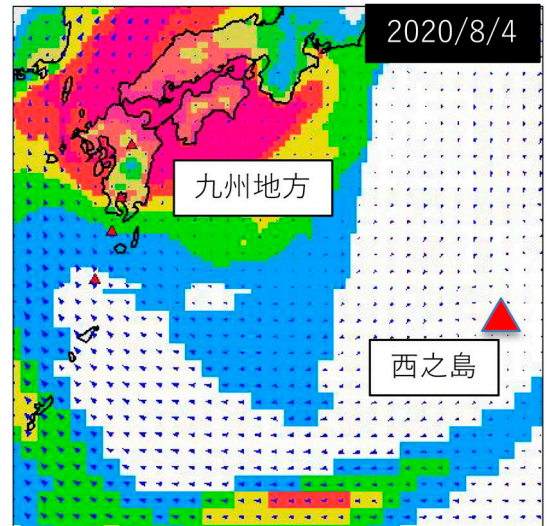
### ● 学生からの声: 研究室での日常

研究テーマに分かれて、浦西研では各自の自主性を重んじた研究活動が行われています。研究の進捗を報告するゼミでは、卒論・修論発表に向けた「伝わるプレゼンづくり」を常に意識しています。浦西先生が親身になってアドバイスやフィードバックをしてくださるので、和やかな雰囲気でのゼミに臨めるのが特徴です。(博士前期課程2年 吉岡翔瑛)

### 浦西 克維(准教授)の経歴

- 1976年 京都府生まれ
- 1999年 京都大学工学部工業化学科 卒業
- 2001年 京都大学大学院工学研究科  
化学工学専攻修士課程 修了
- 2019年 大阪大学大学院工学研究科  
環境・エネルギー工学専攻  
博士後期課程 修了: 博士(工学)

奈良県庁での実務を経て、2022年より北九州市立大学に着任。



西之島の噴火で2020年8月に国内PM<sub>2.5</sub>濃度が上昇した事例のシミュレーション  
※赤色はPM<sub>2.5</sub>質量濃度40 μg/m<sup>3</sup>以上



一期生の吉岡くんが卒論発表会で最優秀賞を受賞



2024年12月 研究室の忘年会にて

◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

第66回大気環境学会年会のお知らせ(第3報)

第66回大気環境学会年会および併設の環境機器展を下記のとおり開催いたします。多数の会員のご参加をお待ちしております。

会期：2025年9月17日(水)～19日(金)  
 会場：名古屋大学東山キャンパス(名古屋市千種区不老町)  
 年会ウェブサイト：<https://sites.google.com/view/jsae66nu/>

【注意点】

- ・前回年会と同様、発表申込み・要旨提出にはGoogle Formsを、参加登録・支払いにはPeatixを利用します。詳細は年会ウェブサイトですぐお知らせします。
- ・支払方法の関係で、年会当日の会場での現金支払いは今年も受け付けません。
- ・早期払込(期限：8月8日)をご利用いただきますと参加費に割引料金が適用されます。
- ・参加費には講演要旨集(PDF)代が含まれます。事前参加登録者には年会ウェブサイトからPDFファイルをダウンロードできるようにします。
- ・法人会員Bおよび協賛会員には年会後に要旨集PDFデータのパスワードを送付します。
- ・年会開催前に発行される学会誌にプログラムを掲載します。
- ・参加申込みには会員番号が必要です。事前にご確認をお願いします。
- ・前回は引き続き今回も「保育支援」を実施いたします。年会開催時の各種保育サービス利用の補助、および現地保育(会場建屋内の保育室設置と名古屋大学内の保育施設の案内)を予定しています。詳細は年会ウェブサイトに掲載予定です。
- ・対面開催を予定しておりますが、天災地変、その他の不可抗力の事由により、年会の開催中止、延期、あるいは開催方法の変更もあり得ます。これらの場合には年会ウェブサイト等を通じて詳細をご連絡いたします。

1. 研究発表申込および年会参加申込の流れ【詳細は年会ウェブサイトおよび年会のお知らせ第4報をご覧ください】

流れ	期限など
1. 研究発表の申込：年会ウェブサイト「一般研究発表」のページより指示に従って申込み。	期限：5月30日(金) ※プログラム編成の都合上、期限の延長はいたしませんのでご注意ください。
2. 「一般研究発表」のページより指示に従って講演要旨原稿を提出。	期限：6月27日(金)
3. 年会ウェブサイトから「参加登録」ページへアクセスしてPeatixより参加登録し、参加費、発表申込金等を払い込む。	早期払込(割引)期限：8月8日(金) 8月9日(土)以降は通常料金となります。
4. 当日 【事前登録者】受付でプログラム集等を受け取る。 【当日登録者】受付でPeatixより当日登録を行い、プログラム集等を受け取る。当日の現金の授受は行いません。	

2. プログラム概要(予定)

日程	午前	午後	夕方
9月17日(水)	口頭発表	ポスター発表 <sup>#</sup> 、特別集会	分科会 <sup>**</sup>
9月18日(木)	口頭発表、 ポスター発表 <sup>#</sup>	総会、受賞記念講演、シンポジウム	意見交換会
9月19日(金)	口頭発表	口頭発表、特別集会、公開シンポジウム	

期間中は全日、環境機器展を開催します。様々な最新機器が展示されますので情報収集などの機会としてご参加ください。関連の技術セミナー(弁当付き、定員あり)も予定しています。

#：1日目のポスター発表は学生・若手研究者を主とし、2日目は一般研究者のみを予定しています。

\*\*：会場数に限りがあるため、分科会は1日目夕方のほか、合同での開催あるいは別日での開催をぜひご検討ください。

### 3. 年会参加登録

#### 3.1 年会参加登録方法

年会ウェブサイトから、各種フォームを利用しての参加登録となります。詳細は年会ウェブサイト「参加登録」をご参照ください。

#### 3.2 年会参加費および早期払込割引(期限8月8日(金))

できるだけ早期払込(期限: 8月8日)をお願いします。期限以降は通常料金となりますのでご注意ください。また、参加費にはプログラム集(冊子体)および講演要旨集(PDF)代が含まれています。年会ウェブサイトの案内に従って、クレジットカード等でお支払いください。払込み後の返金はできません。

参加区分	参加費		意見交換会費 <sup>#</sup>	
	早期払込	8月9日以降	早期払込	8月9日以降
正会員	¥7,500	¥10,000	¥10,000	¥12,000
賛助会員	¥7,500/人	¥10,000/人	¥10,000	¥12,000
法人会員B	¥7,500/人	¥10,000/人	¥10,000	¥12,000
学生会員	¥3,500	¥5,000	¥5,000	¥6,000
法人会員A	¥10,000	¥12,000	¥10,000	¥12,000
名誉会員	招待		¥10,000	¥12,000
非会員	¥10,000	¥12,000	¥10,000	¥12,000
ジュニア聴講生*	¥0	¥0	¥5,000	¥6,000

#: 意見交換会は定員(120名程度)に達した段階で締め切らせていただきます。

- ・定員に達していない場合、当日の参加も可能です。ただし、会場受付にてPeatixを利用したクレジットカード払いのみ受け付けます。現金は受け付けません。
- ・意見交換会の会場: 宿泊施設が豊富な名古屋市栄町周辺を予定しています。詳細は年会ウェブサイトに掲載します。

\*: 高校生・学部学生が参加(聴講のみ)可能なジュニア聴講生の参加区分を新設します。ただし、学会発表する場合には学生会員として入会し、学生会員の参加費をお支払いください。

#### 3.3 講演要旨集(PDFファイル)について

参加登録者は、年会ウェブサイトより事前に講演要旨集のPDFファイルを閲覧・ダウンロードできるようにします。

#### 3.4 プログラム集について

プログラム集(冊子体)は当日配布とし、事前送付はいたしません。講演要旨集(冊子体)は事前にお申込みいただいた購入希望者のみに配付します。講演要旨集(冊子体)の購入をご希望の場合は、3.5をご参照ください。

#### 3.5 講演要旨集の販売

講演要旨集(冊子体)は1冊5,000円(送料込み)で承りま

す。年会ウェブサイトの案内に従い、Peatixを利用したクレジットカード払いにてお支払いください。発送申込み期限までにお申込みされた場合は、冊子体を発送いたします。発送申込み期限は8月中旬、発送は9月上旬以降を予定しておりますが、詳しくは年会ウェブサイトに掲載いたします。発送申込み期限後、または会場でお申込みされた場合は、会場での渡しになります。ただし、当日会場受付におけるお申込みであってもPeatixを利用したクレジットカード払いのみとなり、現金によるお支払いは受け付けません。

講演要旨集(冊子体)にはPDFデータは付属しておりません。また、年会に参加されずにPDF版の講演要旨集の購入を希望される方も、年会ウェブサイトの案内に従ってPeatixよりお申込み・お支払いください。

#### 3.6 個人情報の取り扱いについて

参加登録者から取得した個人情報は、年会の運営に係わる適正な利用範囲(事務局からの問い合わせ、補助金申請のための名簿作成等)に限り使用し、その他の用途でご本人の同意なく第三者に提供することはありません。

### 4 一般研究発表の申込み

#### 4.1 発表形式

発表形式は口頭発表とポスター発表の2種類があります。また、学生・若手研究者の希望者を対象に、優れた口頭発表・ポスター発表を「学生・若手研究者優秀発表賞」として表彰する予定です。なお、学生・若手研究者優秀発表賞のエントリー資格は、学生または博士号を取得していない若手研究者で、正会員・学生会員・法人会員および賛助会員所属の方のみとなります(申込み時には入会申請中でも可)。また、学生・若手研究者優秀発表賞への審査希望は、1名につき口頭発表もしくはポスター発表のどちらか1件のみとし、講演要旨と併せて、内容をアピールするエントリーシートも提出していただく予定です。詳細は、年会ウェブサイトおよび学会誌の続報にて随時お知らせします。なお、口頭発表の枠およびポスター数に制約があります。そのため、発表形式の変更をお願いさせていただくことなど、お申込みいただいた内容がすべてご要望通りにならない可能性があります。

#### 4.2 申込み方法

年会ウェブサイトからの申込みとします。申込みと同時に、発表申込金(演題1題につき3,000円)を年会参加費とともにクレジットカード等でお支払いください。なお、特別集会および分科会の発表申込金は不要です。

申込みの際に入力していただく項目および発表部門は、「6. 研究発表の申込み時の入力項目および発表部門」を参照してください。

#### 4.3 申込み時の注意事項

- 筆頭発表者および演者は会員に限ります(共同発表



者、および特別集会や分科会の演者は非会員でも構いません。未入会の方は、大気環境学会ウェブサイト (<http://www.jsae-net.org>) で入会手続きを行ってから申し込んでください。

- b. 同一演者による一般研究発表は、3題以下とします。複数の発表がある場合には、希望する発表順序を必ず入力してください。なお、特別集会、分科会などはこの数に含みません。
- c. プログラム編成の都合により、発表部門や発表形式、発表件数を変更させていただくことがあります。
- d. 演題名は修正していただくことがあります。
- e. 発表申込みは、共同発表者全員の了承を必ず得てから行ってください。なお、発表内容に問題があると判断された場合には申込みを受理しません。

#### 4.4 発表申込み期限および発表申込金

- a. 発表申込み期限：2025年5月30日（金）
- b. プログラム編成の都合上、申込み期限は延長いたしません。
- c. 年会への参加登録後に発表申込みを行い、年会参加費とともに発表申込金（演題1題につき3,000円）をお支払いください。払込み後の返金はできません。
- d. 発表申込金と参加費の支払いは同じタイミングです。参加費支払いの前に発表申込金を支払う必要はありません。

#### 4.5 講演要旨原稿の提出

提出期限：2025年6月27日（金）

提出方法：年会ウェブサイト「一般研究発表の申込み」のページより指示に従ってご提出ください。

- a. 一般研究発表の要旨は、年会ウェブサイトでのみ原稿を受け付けます。
- b. 原稿の提出は期限厳守をお願いします。
- c. 原稿作成の詳細については後述の「講演要旨原稿作成の手引き」をご覧ください。
- d. 発表申込み時の内容（タイトル・発表者等）と要旨の内容が異なる場合は要旨の内容を優先しますが、プログラム集等への更新内容の反映は保証いたしません。各自にて必ず内容をご確認ください。
- e. 今回からすべての要旨がJ-STAGEに掲載される予定です。

#### 4.6 発表に関する注意事項

- a. 口頭発表では、Windowsでのパワーポイントによるプレゼンテーションを予定しています。ポスターの掲示サイズなど、発表方法の詳細は、年会ウェブサイトおよび続報でお知らせします。
- b. 会場での発表資料等の配付は、各人の責任で行ってください。

#### 5. 特別集会・分科会企画の公募

特別集会と分科会は一つのカテゴリーとして、企画を公募します。開催を希望される場合は、年会ウェブサイトから入手できる様式に従って、下記の「5.1 特別集会・分科会概要」に示す内容をメールで以下のアドレスまでお送りください。会場数に限りがあるため、複数の分科会合同での開催もご検討ください。

申込み期限：2025年5月9日（金）

申込み先：第66回大気環境学会年会実行委員会

E-mail: [jsae66nu@gmail.com](mailto:jsae66nu@gmail.com)

#### 5.1 特別集会・分科会概要

- a. タイトル（特別集会、分科会の別を入力のこと）  
分科会のテーマに関係が深い内容は、特別集会ではなく分科会での申請をお願いいたします。
- b. 趣旨・内容（200字程度）
- c. 企画責任者の氏名、所属、電話番号、メールアドレス
- d. 世話人と座長の氏名、所属
- e. 講演者の氏名、所属、メールアドレス、講演タイトル
- f. 希望日時と予想されるおよその参加者数
- g. 講演要旨は著作権が大気環境学会に属すること、また、J-STAGEにて後日公開されることを企画責任者および講演者が了承しているか

#### 5.2 企画の採否と内容の決定、演題・要旨の提出

年会実行委員会で日程・プログラム編成上の都合を勘案して企画の採否を決定し、企画責任者へ通知します。講演要旨原稿は、企画責任者が取りまとめ、実行委員会宛てにお送りください。なお、特別集会、分科会の演題については発表申込金は不要です。

#### 6. 研究発表の申込み時の入力項目および発表部門

##### 6.1 入力事項

一般研究発表を申込み際に入力いただく項目は以下を予定しています。なお、今後項目が変更される可能性がありますので、詳しくは年会ウェブサイトおよび続報をご確認ください。

##### 【筆頭発表者情報】

- a. 氏名
- b. 会員番号
- c. 会員種別：正会員、学生会員、法人会員A、法人会員B、賛助会員、名誉会員
- d. 所属機関名
- e. 電子メールアドレス
- f. 電話番号

##### 【発表者情報】

- a. 所属機関名

- b. 共同発表者の氏名  
c. 講演要旨掲載順

#### 【発表形式・部門】

- a. 希望発表形式：口頭発表またはポスター発表を選択  
b. 審査希望の有無：学生・若手研究者優秀発表賞の審査希望の有無を入力してください。  
c. 希望発表分類：発表部門・分類一覧の中から、発表を希望する部門・分類を第1希望は必ず、必要に応じて第3希望まで選択してください。  
d. 関連発表順序：複数の関連した内容の発表を続けて行いたい場合は、備考欄に、関連発表の発表者氏名と演題名を入力し、ご自分の発表との順序を入力してください。

#### 【演題名・講演要旨】

- a. 演題名  
b. 発表分類のための要旨：研究概要を100～200字程度で記入（詳細な結果の入力は不要です。）  
c. 発表分類のためのキーワード（3～5個）  
d. 講演要旨（研究発表の申込み時は不要ですが、6月27日までに提出してください。）  
e. エントリーシート（学生・若手研究者優秀発表賞の審査希望者は要旨と同時に提出してください。）

#### 発表部門・分類一覧

1 大気汚染物質	1-1 光化学オキシダント 1-2 VOC 1-3 粒子状物質1（分析・測定手法） 1-4 粒子状物質2（現象解明・事例解析） 1-5 酸性雨 1-6 放射性物質 1-7 有害化学物質 1-8 その他
2 環境動態	2-1 室内環境 2-2 沿道環境 2-3 都市・地域 2-4 東アジア 2-5 地球環境
3 影響	3-1 植物影響 3-2 材料・文化財影響 3-3 臭気 3-4 動物影響・毒性評価 3-5 疫学・リスク評価

4 発生源	4-1 移動発生源 4-2 固定発生源 4-3 排出インベントリ 4-4 排出規制・抑制技術・コベネフィット
5 輸送・反応・沈着	5-1 輸送・拡散 5-2 反応 5-3 沈着
6 手法開発	6-1 測定技術（一般） 6-2 数値解析・モデリング
7 その他	7-1 環境社会科学・環境学習 7-2 気候変動関連 7-3 その他

#### 6.2 著作権について

大気環境学会年会講演要旨集に掲載された講演要旨の著作権は、(公社)大気環境学会著作権ポリシーに基づき、公益社団法人大気環境学会に属します。なお、今回からすべての要旨がJ-STAGEに掲載される予定ですのでご承知おきください。

#### 7. 問い合わせ先など

年会に関する情報は、逐次「大気環境学会誌」の大気環境学会ニュース欄でお知らせするとともに、最新情報は随時年会ウェブサイトに掲載します。不明な点については下記までお問い合わせください。

#### 【年会ウェブサイトアドレス】

<https://sites.google.com/view/jsae66nu/>

#### 【第66回大気環境学会年会に関するお問い合わせ先】

第66回大気環境学会年会実行委員会

E-mail: [jsae66nu@gmail.com](mailto:jsae66nu@gmail.com)

#### 8. 最後に

口頭発表の枠に制約があります。そのため、発表件数を制限させていただくこと、口頭発表でエントリーした方にポスター発表への変更をお願いさせていただくことなど、申込みいただいた内容がすべてご要望通りにならない可能性があります。上記に加えて、特別集会・分科会の開催日や会場（サイズ）などについて、実行委員会から調整のご相談をさせていただく可能性があることを予めご了承ください。

また、会場には駐車スペースがございませんので、公共交通機関でのご参加をお願いいたします。会場へのアクセスにつきましては、年会ウェブサイトおよび続報をご確認ください。

## 講演要旨原稿作成の手引き

### 1. はじめに

年会ウェブサイト内の『一般研究発表申込み』にある原稿作成用テンプレート (Word形式) をダウンロードし、要旨を記載しPDFファイルを作成してください。不都合がある場合は、お問い合わせ先 (jsae66nu@gmail.com) までご連絡ください。

### 2. 本文作成方法

#### 2.1 本文作成

- ①年会ウェブサイトより『一般研究発表申込み／講演要旨原稿作成の手引き』へアクセスしてください。
- ②「原稿作成用テンプレート」をクリックすると、テンプレートファイルがダウンロードできます。
- ③テンプレートをダウンロードできない場合は、下記を参考に作成してください。
  - ・上に25 mm、下に20 mm、左右に20 mmずつ余白をとり、この範囲内に原稿を横書きで書いてください。
  - ・所定の位置に講演題目、名前、所属を記入してください。発表者の所属が異なる場合には、名前と所属の右肩に上付きで1) や2) の印をつけて、対応がわかるようにしてください。
  - ・演者には名前の前に○印をつけてください。
  - ・フォントは講演題目はゴシック12ポイント、講演題

目以外は明朝10ポイントにしてください。

- ④ページの上限は、一般研究発表1ページ、特別集会4ページ、分科会2ページとします。特別集会、分科会の詳細については各企画責任者に問い合わせてください。
- ⑤原稿をPDFファイルに変換してください。
  - ・Adobe Acrobat等でPDFファイルに変換してください。
  - ・PDF変換の際には、フォントの埋め込みを行ってください。
  - ・必ずPDFファイルを出力して、文字化け、画像の乱れ等がないかご自身で確かめてください。事務局では内容のチェックをしません。画像の乱れや文字化けなどがそのまま講演要旨集に掲載されますのでご注意ください。

#### 2.2 原稿提出・修正

要旨のアップロード方法は、後日年会ウェブサイトおよび続報にてお知らせいたします。なお、発表申込み期限である5月30日以降は、プログラム編成上、要旨原稿の入れ替え以外の演題名や発表者名等の変更は原則として受け付けませんのでご注意ください。詳しくは年会ウェブサイト (<https://sites.google.com/view/jsae66nu/>) をご確認ください。

## ◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

## 第66回大気環境学会年会「環境機器展」のご案内

公益社団法人大気環境学会では、2025年9月17日（水）から9月19日（金）の3日間、名古屋大学東山キャンパスにて第66回大気環境学会年会を開催致します。例年通り、年会に併設して『環境機器展』を開催します。毎年400名を超える大気環境分野の研究者が集う本年会は、貴重な情報交換の場ともなっております。年会と併行しまして、貴社製品の展示や技術、サービス等をご紹介いただく環境機器展ならびに技術セミナーを同会場にて行う予定です。

つきましては、貴社の製品・技術・サービスを年会参加者に広くご紹介いただくことはもとより、参加者との情報交換等のために、この機会に奮ってご出展くださいますようご案内申し上げます。

あわせて、プログラム集（冊子体）と講演要旨集（PDF）への広告や、年会ウェブサイトへのバナー広告の掲載も予定しておりますので、皆様方のご支援、ご協力、何卒、宜しくお願い申し上げます。出展特典の一例を以下に紹介いたします：

- (1) 一般講演等にご参加いただける年会参加証、プログラム集（冊子体）、講演要旨集（PDF）の進呈
- (2) 技術セミナーでの発表割引、バナー広告への掲載割引
- (3) 学会員の研究ニーズ情報ご提供

『環境機器展』への出展のお申込みは5月30日（金）までを予定しております。詳細は年会ウェブサイト（<https://sites.google.com/view/jsae66nu/>）をご確認ください。なお、天災地変、その他の不可抗力の事由により、年会の開催中止、延期、あるいは開催方法の変更もあり得ます。これらの場合には改めて詳細をご連絡いたします。

## ◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

## 大気環境学会賞受賞候補者の推薦について

来る2025年9月に「第66回大気環境学会年会」で開催される「令和7年度大気環境学会総会」において、大気環境学会賞の表彰を行いますので、「大気環境学会の表彰に関する規定」(平成27年3月20日改定：学会ホームページに掲載)をご参照のうえ、受賞候補者の推薦を下記要領でお願いいたします。

近年は推薦される方が少なくなっておりますので、受賞に相応しいと思われる方を積極的にご推薦ください。

## 記

## 1. 表彰の対象となる業績

- ・学術賞(斎藤潔賞)：国内外において学術上ならびに社会的に顕著な業績をあげた人
- ・功労賞(鈴木武夫賞)：本学会または地域・社会に対して多大な業績をあげた人(年齢55歳以上)
- ・進歩賞：学術上優れた業績をあげた若手研究者(申請年の4月1日現在で年齢40歳以下)
- ・技術賞：技術的に優れた業績をあげたか、或いは技術の普及に著しい功績をあげた人

## 2. 推薦に必要な書類等

- ①推薦状(推薦者の所属、氏名、生年月日の記載ならびに捺印のあるもの)
- ②被推薦者の氏名、生年月日、所属、略歴
- ③推薦理由書(2,000字程度)ならびにその概要(200字程度)
- ④業績資料 学術賞及び進歩賞については、主たる推薦理由に相当する論文の目録(大気環境学会誌並びにAsian Journal for Atmospheric Environment(AJAE)の原著または総説を含む)、および主要論文の別刷(主要論文を3編、PDFファイルでの提出を推奨)。  
技術賞に関しては、業績を証明するための資料、書類等、例えば「行政報告書」、「技術報告書」、「特許」、「製品検査報告書」、「著書」等。  
功労賞に関しては、業績についての具体的な事実と成果に関する説明。
- ⑤推薦者は2名以上を必要とする。
- ⑥②、③、④の業績目録については電子データも別途に提出を必要とする。

## 3. 送付先および期限

送付先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

(公社)大気環境学会事務局 大気環境学会賞選考委員会

TEL: 03-6824-9392 FAX: 03-5227-8631

E-mail: jsae-post@as.bunken.co.jp

締 切：2025年5月30日(金) 必着

## 4. 同一名義人による推薦は、表彰の対象となる種類毎に、原則として毎年1件とする。

備考 これまでの学会賞の受賞者の記録は、学会ホームページに掲載されています。

## ◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

## Asian Journal of Atmospheric Environment

Vol.18 Article number 24–26 2024, Vol.19 Article number 1 2025

## CONTENTS &amp; ABSTRACT

Vol. 18, Article number: 24

Research Article

**Microbiostatic effect of indoor air quality management with low-concentration gaseous chlorine dioxide on fungal growth**

Ryosuke Mitani\*, Hiroko Yamanaka, Yo Ishigaki, Daisuke Nakayama, Mitsuharu Sakamoto, Chihiro Watanabe, Tatsuhiro Mori, Tomoaki Okuda\*

.....<https://link.springer.com/article/10.1007/s44273-024-00047-8>**ABSTRACT**

Biological contamination of fresh produce by fungi in storage is becoming a serious problem. Gaseous chlorine dioxide (ClO<sub>2</sub>) has been used to prevent fungal growth on fresh produce; however, the specific effects of gaseous ClO<sub>2</sub> at concentrations low enough to be safe for the human body on fungal growth remain unknown. Therefore, in this study, we aimed to investigate the effect of low-concentration gaseous ClO<sub>2</sub> on fungal growth in sweet potatoes over 1 month. Here, a mechanochemical reaction involving the collision of two types of powders was used to produce low

concentrations of gaseous ClO<sub>2</sub>. The experiment was conducted in a container and chlorine dioxide gas was diffused by a circulator to verify its microbiostatic effect in a large space. A clear microbiostatic effect was observed in potatoes without skin when exposed to low-concentration ClO<sub>2</sub> for 3 days. Notably, low concentrations (<1.0 ppm) of ClO<sub>2</sub> reduced *Rhizopus stolonifer* growth in sweet potatoes with skin over 1 month. Therefore, low concentrations of gaseous ClO<sub>2</sub> are sufficient to inhibit fungal growth via gas diffusion.

## 【和訳情報】

**低濃度二酸化塩素ガスを用いた空気質管理による真菌増殖抑制効果**三谷 亮介<sup>1</sup>、山中 裕子<sup>1</sup>、石垣 陽<sup>1,2</sup>、中山 大輔<sup>3</sup>、坂本 満春<sup>3</sup>、渡邊 千洋<sup>3</sup>、森 樹大<sup>1</sup>、奥田 知明<sup>1</sup> (<sup>1</sup>慶應義塾大学理工学部、<sup>2</sup>電気通信大学大学院情報理工学研究所、<sup>3</sup>NSW株式会社)

貯蔵中の生鮮食品に対して、真菌による微生物汚染が深刻な問題となっている。生鮮食品への抗真菌剤として、二酸化塩素が注目されているが、人体に安全な低濃度の二酸化塩素の長期的な曝露が生鮮食品の病原菌である真菌の増殖に及ぼす影響については明らかになっていない。そこで、本研究では低濃度の二酸化塩素ガスがサツマイモ上の真菌 (*Rhizopus stolonifer*) の増殖に及ぼす影響を調査した。ここでは、2種類の原料粉体を衝突させるメカノケミカル反応を用いて、低濃度の二酸化塩素ガスを発生させた。実験はコンテナ内で行い、発生させた二酸化塩素ガスをサーキュレーターで拡散さ

せることで、コンテナ空間での低濃度二酸化塩素ガスの静菌効果を検証した。1.0 ppm以下の濃度の二酸化塩素ガスを3日間曝露させたところ、サツマイモ片における *Rhizopus stolonifer* への静菌効果が確認された。さらに、1か月間1.0 ppm以下の濃度の二酸化塩素ガスを曝露したところ、皮つきのサツマイモ上での *Rhizopus stolonifer* の増殖を抑制したことが確認された。従って、低濃度の二酸化塩素ガスは空間に拡散させることでサツマイモ上の真菌の増殖を抑制することが明らかとなった。

Vol. 18, Article number: 25

Research Article

**Enhanced PM<sub>2.5</sub> prediction in Delhi using a novel optimized STL-CNN-BILSTM-AM hybrid model**T. Sreenivasulu, G. Mokesh Rayalu\*.....<https://link.springer.com/article/10.1007/s44273-024-00048-7>**ABSTRACT**

Accurate air pollution predictions in urban areas facilitate the implementation of efficient actions to control air pollution and the formulation of strategies to mitigate contamination. This includes establishing an early warning system to notify the public. Creating precise estimates for PM<sub>2.5</sub> air pollutants in large cities is a challenging task because of the numerous

relevant factors and quick fluctuations. This study introduces a novel hybrid model named STL-CNN-BILSTM-AM. It combines the seasonal-trend decomposition method with LOESS (STL) to simplify learning tasks and increase prediction accuracy for complex, nonlinear time-series data. Convolutional neural networks (CNNs) extract features from decomposed components of PM<sub>2.5</sub> and other feature

variables, such as pollutants and meteorological variables. Bidirectional long-short-term memory (BILSTM) uses these features to extract temporal relationships, enabling the forecasting of daily PM<sub>2.5</sub> levels at four locations in Delhi. This hybrid model uses attention mechanisms to extract the most significant information, as well as Bayesian optimization to tune the hyperparameters. The suggested model greatly improved performance in all four regions used

in this study, as evidenced by the findings. We compared it with the CNN-BILSTM, BILSTM, LSTM, and CNN models, and the suggested model outperformed the state-of-the-art models by utilizing STL decomposition components and other features. The overall results show that the STL-CNN-BILSTM-AM is better at predicting air quality, especially the concentration of PM<sub>2.5</sub> in cities when the data has a high seasonal trend and is complex.

Vol. 18, Article number: 26

Research Article

### Shapes in submicron ammonium sulfate particles after long-term exposure on tree leaves

Kenichi Yamane, Satoshi Nakaba, Masahiro Yamaguchi, Katsushi Kuroda, Yuzou Sano, I. Wuled Lenggoro, Takeshi Izuta, Ryo Funada\*

.....<https://link.springer.com/article/10.1007/s44273-024-00046-9>

#### ABSTRACT

Assessing the effects of air pollutants, including aerosols, on trees is important for protecting forests in the future. This study determined the adsorption of particles on trees after 1- or 2-year long-term exposure (for 1 or 2 h/day) to submicron-scale ammonium sulfate (AS) particles using a field-emission scanning electron microscope (FE-SEM). Energy-dispersive X-ray spectroscopy (EDX) was also used to distinguish particles resulting from exposure from those present on the leaves under natural conditions prior to the 1- or 2-year exposure. We found submicron-sized AS particles were deposited on the leaf surfaces of four tree species after long-term exposure in a growth chamber <70% humidity.

These particles occurred as individual deposits without aggregation on the abaxial and adaxial surfaces. The particle shape deposited on the leaf surface in short-term (3–30 min) exposures in a growth chamber <70% humidity was spherical with no corners, whereas that in long-term exposures was nonspherical flattened, angular, or irregular. Few micrometers was also observed, differing from 300 to 600 nm in diameter at exposure. These differences could be caused by the possibility that the particles have been deposited for a long time or that the humidity on the leaf surface has caused them to deliquesce and change shape after deposition. We hypothesized that these particle changes facilitate the uptake of AS into the leaf interior.

【和訳情報】

#### 樹木の葉に長期間曝露したサブミクロンサイズの硫酸アンモニウムの形状

山根 健一<sup>1,2</sup>、半 智史<sup>2</sup>、山口 真弘<sup>3</sup>、黒田 克史<sup>1</sup>、佐野 雄三<sup>4</sup>、I. Wuled Lenggoro<sup>5</sup>、伊豆田 猛<sup>2</sup>、船田 良<sup>2</sup> (<sup>1</sup>森林総合研究所、<sup>2</sup>東京農工大学大学院農学研究院、<sup>3</sup>長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科、<sup>4</sup>北海道大学大学院農学研究院、<sup>5</sup>東京農工大学大学院工学研究院)

エアロゾルを含む大気汚染物質が樹木に与える影響を評価することは、将来の森林保護にとって重要である。本研究では、電界放出型走査電子顕微鏡 (FE-SEM) を使用して、サブミクロンサイズの硫酸アンモニウム (AS) 粒子を1-2年間 (1日につき1-2時間) 長期曝露した後の樹木への粒子の吸着を調べた。またエネルギー分散型X線分光法 (EDX) により、曝露により葉に沈着した粒子と、1-2年間の曝露前にもともと葉に存在していた粒子を区別した。湿度70%以下の曝露チャンバー内で長期曝露した後、使用した4種すべての樹木の葉の表面にサブミクロンサイズのAS粒子が沈着していた。これらの粒子は、向軸面と背軸面両方で凝集すること

なく個々に沈着していた。湿度70%以下の曝露チャンバー内での短期 (3-30分間) 曝露で葉の表面に沈着した粒子の形状は角のない球形であったのに対し、長期曝露後では球形ではなく、扁平で、角張っていて、不規則な形状のものもあった。曝露時の直径の300-600 nmとは異なる、数マイクロメートルの粒子も観察された。短期曝露後と長期曝露後での粒子の形状の違いは、粒子が長期間沈着したことによるものか、葉の表面の湿度によって沈着後に粒子が潮解して形状が変化したことが原因である可能性がある。これらの粒子の変化により、葉の内部へのASの吸収が促進された可能性が考えられる。

Vol. 19, Article number: 1

Research Article

### Numerical analysis of collision mechanism that causes particle tribocharging in dry powder inhaler

Ryosuke Mitani\*, Muhammad Aiman bin Mohd Nor, Takuto Iinuma, Tatsuhiko Mori, Tomoaki Okuda\*

.....<https://link.springer.com/article/10.1007/s44273-025-00049-0>

#### ABSTRACT

Chronic obstructive pulmonary disease (COPD) is induced

by inhalation of toxic substances such as cigarettes and air pollution. Dry powder inhalers (DPIs) are the primary

treatment for these diseases. However, they have some problems, such as residuals in a capsule caused by electrostatic force before reaching the human lungs. This study investigated the particle tribocharging mechanism in a DPI using a tandem differential mobility analyzer (TDMA) and a combined discrete element method and computational fluid dynamics (DEM-CFD) approach. In the TDMA experiment, the charging state of the particles changed from negative to positive charge in the DPI device fabricated by the 3D printer. This is because tribocharging is caused by particle-particle collisions and particle-wall collisions. In the numerical simulation, particle-wall collisions occurred more

frequently than particle-particle collisions. Therefore, the particle-wall collisions change the charging state of the particle in the DPI device. These results suggest that collisions between particles and walls of the device cause the particles to become charged, leading to a decrease in their deposition in the deeper regions of the lungs. Moreover, the large turbulence kinetic energy of the airflow in the DPI device caused particle-wall collisions because the particles were widely dispersed in the DPI device. These results suggest that optimum turbulence kinetic energy is necessary to reduce particle aggregation and improve the delivery efficiency of DPIs to the human lungs.

#### 【和訳情報】

### 数値シミュレーションを用いた粉末吸入製剤内の摩擦帯電をもたらす粒子衝突メカニズムの解明

三谷 亮介<sup>1</sup>、Muhammad Aiman bin Mohd Nor<sup>1</sup>、飯沼 拓人<sup>1</sup>、森 樹大<sup>1</sup>、奥田 知明<sup>1</sup> (<sup>1</sup>慶應義塾大学理工学部)

粉末吸入製剤 (DPI) は、慢性閉塞性肺疾患などの肺疾患の主な治療薬として注目されている。しかし、DPIのデバイス内で摩擦帯電による静電気力が発生し、その付着力によって、粒子がデバイス内で残留し、疾患部位である肺内まで薬物粒子が到達しないという問題が発生している。そこで、本研究では微分型電気移動度測定器 (DMA) を2台用いたタンデムDMA (TDMA) による粒子帯電状態の分析と、離散要素法 (DEM) および数値流体力学 (CFD) を連成させたDEM-CFDによる数値シミュレーションによってDPIにお

ける粒子の摩擦帯電メカニズムを解明することを試みた。TDMAの実験から、3Dプリンターで製作したDPIデバイスを通過する粒子の帯電分布が、変化していることが確認された。また、数値シミュレーションから粒子の衝突を解析すると、流体の乱流エネルギーが高い箇所、粒子-デバイス壁面間の衝突が多く確認された。従って、粒子-デバイス壁面間の摩擦帯電を減少させるためには、デバイス内の乱流エネルギーを低減させる最適な構造を持つデバイスの設計が必要であることが示唆された。



## 支部だより

### 関東

#### 講演会開催のお知らせ

関東支部粒子状物質部会では、関東地方大気環境対策推進連絡会との共催で以下のとおり講演会を開催します。

●本講演会は会員／非会員の区別なくどなたでもお申し込みいただけます。

主催：関東地方大気環境対策推進連絡会 微小粒子状物質・光化学オキシダント調査会議

共催：大気環境学会関東支部粒子状物質部会

日時：令和7年3月13日（木）13:30～15:15

会場：Zoomによるオンライン開催

プログラム：

- 近年の光化学オキシダント、PM<sub>2.5</sub>対策の動向について  
山田 克之 氏／環境省水・大気環境局環境管理課
- PM<sub>2.5</sub>濃度が低下傾向にある中で成分測定精度を担保できているか？  
吉村 有史 氏／一般財団法人日本環境衛生センター
- 関東甲信静におけるPM<sub>2.5</sub>のキャラクタリゼーション～関東PM・Ox合同調査令和5年度のまとめ～  
工藤 和樹 氏／静岡県環境衛生科学研究所

費用：参加費無料

申し込み先：<https://forms.office.com/r/xQbKHZ35UK>

申し込み締切：令和7年3月11日（火）正午

問い合わせ：さいたま市健康科学研究センター 城 裕樹

E-mail: [jsae.kanto@gmail.com](mailto:jsae.kanto@gmail.com)



(申し込み用QRコード)

### 中部

#### 中部支部・オンライン講演会の報告

中部支部では、「大気環境モニタリングはなぜ必要か—科学的知見の重要性—」と題したオンライン講演会を2024年12月26日に開催致しました。大気汚染常時監視局や越境大気汚染・酸性雨長期モニタリング地点など、大気環境モニタリング全体の見直しを迫られているなかで、今一度、科学的基盤として、またそれに基づく環境政策に与える影響も含め

各支部のホームページもご覧ください。

学会ホームページ (<https://www.jsae-net.org/>) にリンクがあります。

て、モニタリングの必要性や有用性について議論することを趣旨と致しました。

当日は、オンライン会議システムの技術的不備等もありましたが、200名を超える方が参加されました。また、登録者向けに限定公開された動画は、延べ420回も視聴されました。事前登録の約3割が非会員であり、大気環境モニタリングへの関心の深さが示唆されました。中部支部では、本件を含むホットトピックを今後も取り上げて行きたいと思いません。

開催記録は以下のとおりです。

日時：2024年12月26日（木）13:00～15:30

会場：オンライン

演題：

- 常時監視測定局の利活用（大気環境総合センター 若松伸司）
- WHO 2021年大気質ガイドラインと健康影響の最新知見（北海道大学 上田 佳代）
- 大気成分の寿命と排出源：観測の必要性和場所の重要性（名古屋大学 長田 和雄）
- 大気環境政策のEBPM（アジア大気汚染研究センター 山下 研）

事前登録者数：235名

当日アクセス数：200名以上（199名のウェビナー参加者に加え、パネリスト、事務局等）

動画アクセス数：420回（開会・質疑も含む6本の動画の延べ数）

### 近畿

#### 生体影響部会講演会のお知らせ

テーマ：大気汚染と子どもの健康

日時：令和7年3月27日（木）14:00～16:30

会場：尼崎市中小企業センター 会議室402

（阪神尼崎駅より徒歩約5分）

<https://www.ama-in.or.jp/guide/access.html>

プログラム：

- 金谷久美子（京都大学）  
題目「黄砂やPM<sub>2.5</sub>の、子どもの目鼻胸の症状に与える影響」
- 荒木 真（大阪大学）  
題目「健康影響評価のための大気質モデリング」
- 島 正之（兵庫医科大学）  
題目「出生前後の大気汚染への曝露が子どもの神経発達及びアレルギーに与える影響」

参加費：無料

参加申込: 40名で申込先着順となります。参加には事前登録が必要です。必ず事前申込をお願い致します。

主催: 大気環境学会近畿支部 生体影響部会

参加申込: 3月21日(金)までにGoogleフォーム (<https://forms.gle/MyxpcrF8bjUSTzjG6>) より、お申込みください。

問合せ先: 余田 佳子 (関西福祉科学大学)  
yoda@tamateyama.ac.jp

## 分科会・研究会だより

各分科会・研究会のホームページもご覧ください。  
学会ホームページ (<https://www.jsae-net.org/>) にリンクがあります。

### 環境大気モニタリング分科会

#### 56回研究会のお知らせ

環境大気モニタリング分科会では、「窒素循環における一酸化二窒素 ( $N_2O$ ) の大気排出、観測およびその対策」をテーマに、第56回研究会を開催します。本研究会では廃棄窒素管理の観点から、 $N_2O$ の排出、大気中 $N_2O$ の観測、さらに主要排出源の一つである下水処理における $N_2O$ 排出とその対策について最新の動向を解説していただきます。会員以外の方も歓迎しますので関心のある方はぜひご参加ください。

日時: 2025年3月28日(金) 14:00~16:30

会場: 江東区文化センター 大研修室(東京都江東区東陽4-11-3) およびZoomによるハイブリッド開催 (Zoomの接続情報は、申込時にお知らせする「研究会の情報サイト」に掲載します。)

代表者: 星 純也 (東京都環境科学研究所)

プログラム:

- 廃棄窒素管理における $N_2O$ 排出の意義 (仮)  
仁科 一哉 氏 (国立環境研究所)
- 大気中 $N_2O$ の安定同位体比観測と収支解析への応用  
豊田 栄 氏 (東京科学大学)
- 下水処理に伴う一酸化二窒素排出の実態把握と抑制対策について  
石井 淑大 氏 (国土技術政策総合研究所)

参加費: 無料

参加申込: 事前申込が必要です。下記Googleフォームからお申し込みください。研究会の詳細情報は、ご登録頂いたメールアドレスに送付します。  
(<https://forms.gle/4qKjaN6BffNcXmXX8>)



問合せ先: 賢持 省吾 (東亜DKK) s-kenmochi@toadkk.co.jp

### 植物分科会

#### 公開シンポジウムのお知らせ

##### BVOC研究の新展開

##### 一進化論から放出目録整備、

##### 大気質影響までの最新の知見一

植物分科会では、様々な観点から研究対象となるBVOCについて、最新の研究動向を網羅的に紹介するシンポジウムを開催し、研究分野の拡大を図るとともに、一般市民に本研究分野の成果がどのように社会貢献するのかについて情報発信するための公開シンポジウムを企画しています。プログラムや参加申し込み方法等につきましては次号に掲載しますが、決まり次第、植物分科会ホームページでご案内いたします。

主催: 大気環境学会植物分科会、日本学術会議農学委員会  
農業生産環境工学分科会 (予定)

共催: 日本農学アカデミー (予定)

日時: 2025年6月27日(金) 13:00~17:00

会場: オンライン開催

植物分科会HP:

<https://sites.google.com/site/taikishokubutsu/home>

## 委員会だより

### 編集委員会

#### 研究論文の投稿のお願い

本誌への研究論文（原著論文、ノート、速報、技術調査報告）の投稿をお待ちしています。投稿された研究論文は、査読委員と編集委員会による審査を経て、採用されればJ-STAGE上で公開されます。研究成果を広く知ってもらえる貴重な機会ですので、積極的な投稿をお願いします。詳細は投稿規程と投稿の手引きをご覧ください。

#### 「研究室・企業紹介」の原稿募集のお知らせ

本誌では、会員の相互理解を深めるため、「研究室・企業紹介」のコーナーで、会員機関の研究室紹介を行っています。このコーナーの原稿を募集しますので、日頃の研究取り組みを情報発信したい会員の方、ぜひご投稿よろしくをお願いします。

投稿を希望される方は、大気環境学会誌編集事務局 (jsae-edit@bunken.co.jp) までご連絡ください。担当より執筆要領等の詳細をご案内いたします。

#### 会員へのお知らせの掲載について

学会活動以外の行事開催案内や研究資金公募など、会員に有益であると思われる情報を、テキスト形式でメールマガジンに掲載します。掲載料は1ページ10,000円（非会員は20,000円）とします。希望者は原稿を大気環境学会誌編集事務局 (jsae-edit@bunken.co.jp) にお送り下さい。編集委員会で掲載の可否を決定します。

### 論文賞選考委員会

#### 論文賞の選考対象について

論文賞選考委員会では、1年間に大気環境学会誌と Asian Journal of Atmospheric Environment (AJAE) に掲載された論文の中から、論文賞を選考しています。大気環境学会誌については、全ての研究論文（原著論文、ノート、速報、技術調査報告）を選考の対象とします。また、AJAEについては、大気環境学会の会員を責任著者 (Corresponding Author) とする Research Articleを選考の対象とします。選考対象論文の投稿をぜひよろしくお願いします。

 関 連 学 協 会 だ よ り **第42回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会**

日時: 2025年4月22日~23日

場所: 早稲田大学国際会議場

URL: <https://www.jaca-1963.or.jp/jp/event/%E7%AC%AC42%E5%9B%9E%E7%A9%BA%E6%B0%97%E6%B8%85%E6%B5%84%E3%81%A8%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%9F%E3%83%8D%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%AB.html>**第10回国際窒素会議 (N2026)**

日時: 2026年11月2日~6日

場所: 国立京都国際会館

## 賛助会員一覧（五十音順）

株式会社秋田県分析化学センター

川崎市環境局環境総合研究所

株式会社環境管理センター

紀本電子工業株式会社

柴田科学株式会社

株式会社数理計画

一般財団法人大気環境総合センター

東亜ディケーケー株式会社

東京ダイレック株式会社

東京都環境局環境改善部

日本カノマックス株式会社

一般財団法人日本環境衛生センター

東日本高速道路株式会社

富士電機株式会社 パワエレシステム インダストリー事業本部

## 「大気環境学会誌」編集委員

編集委員長	茶谷 聡	国立環境研究所			
副編集委員長	板野 泰之	大阪市立環境科学研究センター			
編集委員	井上 和也	産業技術総合研究所	澤田 寛子	農研機構	
	猪股 弥生	金沢大学	鶴丸 央	東京都環境科学研究所	
	浦西 克維	北九州市立大学	豊永 悟史	熊本県保健環境科学研究所	
	奥村 智憲	大阪府立環境農林水産総合研究所	原 由香里	九州大学	
	小野 浩己	電力中央研究所	樋口 能士	立命館大学	
	柏倉 桐子	日本自動車研究所	藤井 佑介	大阪公立大学	
	木戸 瑞佳	富山県環境科学センター	藪下 彰啓	愛知工科大学	
	工藤 慎治	滋賀県立大学	山口 真弘	長崎大学	
	熊谷 貴美代	群馬県衛生環境研究所	吉野 彩子	国立環境研究所	
	栗林 正俊	長野県環境保全研究所	渡辺 幸一	富山県立大学	
	坂本 陽介	国立環境研究所	和田 龍一	帝京科学大学	
	定永 靖宗	大阪公立大学			

### 複写される方に

本誌(書)に掲載された著作物を複写したい方は、著作権者から複写権の委託をうけている次の団体から許諾を受けて下さい。

学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619